

川崎競馬倶楽部

15th ANNIVERSARY

<http://www.kawasakikeiba.com>

since1990

〒212-0002 川崎市幸区小向仲野町15-4 川崎競馬倶楽部

2006年7月①号

大金星ビービートルネード閃く☆



第52回東京ダービーを制したのは伏兵ビービートルネードと町田直希ジョッキー。18歳の若武者が初めて手にしたタイトルが3歳の頂点を極めるダービーの栄誉。直線馬群を削って突き抜けると大きく勝利のガッツポーズでアピールした。

前走勝って最後につかんだダービー切符。12番人気が表示するように突然現れた新星の強さにファンもそして関係者さえも驚いた。道中は人気馬をマークしながら折り合いに専念。逃げたサンキューウィンが粘り、トキノシャンハイが差して決着したかに思われた馬群の真ん中を割って一気に交わしに出た。直線の脚を信じて懸命に追ったという。「最後までう一度伸びてくれました」と誇らしげに語った。

今年のダービーには川崎から四頭が駒を進めた。2着は最後までせめぎ合ったトキノシャンハイ。「状態がとてもよく自信があったし乗り方も完璧だったので一瞬勝ったかと思っただけ。今は挫折してしまい厩舎で調整中。次走は黒潮盃予定だが状態がよくないようであれば来年に向けて長期放牧に出す予定」。キングトルネード(6着)は「砂を被らないレースをすれば結果だから納得するしかない。目標を切り替えて戸塚記念かダービーグランプリを目指す。まずは次走JDD」。カネシロウマリノス(15着)は「この馬なりに懸命に走った結果。このあとは短期放牧の予定」。



Photo by YANAGIHARA.P

6月7日 大井2000m

第52回 東京ダービー優勝

◆	ビービートルネード	◆
父	タヤスツヨシ	
母	ノースハッピー	
牡	3歳 鹿毛	2003年5月13日
馬主	●(有)坂東牧場	
調教師	●武井栄一	
調教師補佐	●久保勇	
騎手	●町田直希	
厩務員	●高松良行	
生産者	●加納牧場	

「勝って嬉しかった！」と初の東京ダービー制覇に満面の笑みの武井調教師。

前走の川崎ハナミズキ特別を勝つまで「東京ダービー」出走の予定もなかった。「今までのレース内容がいくら内容が良かったとはいえそれは条件戦でのごと。初の重賞出走が東京ダービーで通用するかもまったくわからない状態だった」という。しかし、その一方で「距離が伸びるのはこの馬にとっていい。雨馬場は得意だし好位について前が追いついてくれて掲示板取ればいいなと思っていた」とほんの少し期待もしていた。

もともと道管馬で右回りにも問題ないこと、輸送も初めての場所でも大丈夫なことは浦和、船橋でわかっていたので馬場みせにも行かず今まで通りマイペースでダービーの日を迎えた。

そして、この日も普段通り、道中の位置取りなどすべてを町田騎手に託した。勝利を確信したのは馬群を抜けて出てきた時だった。

「こちらが思う以上にこの馬に力があつたんだろうな。あ。」と嬉しい誤算。それもそのはずでこの馬はもともと馬主の元へ来たのもほかの馬のつけ馬だったという。道管で条件満たしたらくる予定だったものの来てみれば脚はひょろっと長し、胴も薄くて見栄えしなかったらしい。しかも攻め馬ではひっかかりやすかった。

「甲斐厩務員が一生懸命やってくれた」と語るとおりレースではひっかかる癖は微塵も感じさせない。馬の能力はもちろんだが陣営の強い信頼が結びついて生まれた勝利といってもいいだろう。

今後は馬の体調等と相談しながら戸塚記念あたりからの始動を目指す。「JDDに向かうことも考えたが使い込んでいたため休ませることにした。」と6月中旬に北海道へ早めの夏休み。放牧先に着いて2日間はぐったりしていたものの20日に笹張りして休養し今は元気に走り回っているそう。帰厩は8月下旬から9月上旬予定。



町田直希騎手18歳最年少ダービージョッキー誕生！



「キングトルネードとシャイニールックの間を割った時に「行ける！」と思ったので、その後のガッツポーズは本当に自然に出ました」。

ゴール手前でのフライングのガッツポーズはご愛嬌。(もちろん採決室では注意されたそうですが)18歳という若さでダービージョッキーとなった町田騎手。ダービーだから特別に緊張はしなかったと言うが、騎手の待機所はさすがにいつもとは雰囲気違う独特の無言の空気が漂っていたという。

レースを振り返ってもらおう。まずは位置取り。「前のほうにつけようと思っていたら4、5番手のいい位置につけることができた。」。まわりの馬が一気に動き出した3、4コーナーも

慌てるそぶりもない。そして直線、どの馬よりも最後まで追い出しを待った。「動かなかったというより、前があかなかつたのであくまで待っていました。あいたら抜ける根性がある馬だと思っていたので」と馬を信じての絶妙な騎乗。

師匠である秋山調教師からも「おめでとう」と言われ、両親には自分から報告。翌日、まわりの人たちからもたくさんの祝福の言葉をもらい、実感がわいたと言う。

ダービー制覇まで1年2ヶ月。「アツという間でした」と振り返る。「特別に大きなケガもすることなく、とにかく順調だった。ただ減量をとったあとはさすがに苦労した」と語る。

昨年は名だたる新人賞を総なめにし、昨年12月には減量特典を自ら返上して重賞騎乗の機会を得た。デビューからダービー制覇まで一気に駆け上がるなかで一番印象に残っていることは？と聞くと「自厩舎のハロードーリーで勝ったこと」と答えてくれた。実はこのハロードーリー、町田騎手が競馬学校生として厩舎実習に研修に来ていたときから攻め馬をしていた思い出の馬。確かにデビューしてすぐの川崎競馬倶楽部の取材でもハロードーリーの名前をあげている。(川崎競馬倶楽部05年4月号)次なる目標を聞くと「自厩舎(秋山厩舎)の馬で重賞を勝ちたいです」と、自厩舎に対する思いは熱い。

そして最後に「ダービーをとったけれど、これからが本当の勝負。ダービーを勝ってうかれていると思われないう、これからも一生懸命がんばりますので、応援よろしくお願いします」というメッセージをもらった。

初重賞制覇が東京ダービーという大仕事。これからさらに注目の18歳ダービージョッキーである。

チームワークの勝利～高松厩務員と甲斐厩務員

「馬体にはこれといった特徴はなかったけど、攻め馬でのキャンターはタダモノではないと思っていました。うまくいけば重賞戦線に乗れるかもしれないという期待はありました。」と語ってくれたのは高松良行厩務員。

普段厩舎では大人しくて、手がかからないというビービートルネード。でも何故か体を洗われるのが嫌いだとか。

以前ゲートがあまりよくないからと着けていたというメンコの耳あてを外し、チークピースにしたら、見事2連勝でダービーへと駒を進めた。

飼料の作り方や与えるものを変えたところ食べるようになり、厳しいローテーションにもかかわらず当日は1kgで出走する事が出来た。

「ダービーまでは気を遣ってしまいよく眠れなかった。」という高松厩務員。「バドックでは気合い乗りがすごくよかったです。」

勝った瞬間は何と厩務員用のバスの中で、場内のビジョンを見ていたそう。「実況の声もよく聞こえなかった。ビジョンに黄色の勝負服が映し出されていると言われて。」愛馬の勝利を知ったこと。「勝った日はやはり眠れませんでした。その後はよく眠っています。」

「あれだけの調教を乗ってこられるのは甲斐さんだけ。甲斐さんを信頼しています。」という高松厩務員の言葉からもわかる通り、ここまで調教面では甲斐年光厩務員がつきっきりで担当してきた。

「攻め馬ではひっかかり横を向いたり、また手前を替えたりするのが難しかった。調教で手にマメが出来るくらい制御が大変だった。」と甲斐厩務員。「追い切りの10日くらい前に、ゾクとするくらいの気合いをみせた。その時もしかしたら勝てるかも？と思ったよ。」

ビービートルネードは例えるなら「国産車にF1のエンジンが搭載されているような。」感じだそう。

「ダービーの前にこの馬に合った調教を見付ける事が出来た。(高松厩務員が)乗る前に馬の状態などを事細かに報告してくれるので、調教の調整もうまくいったからね。」と満足そうな表情を浮かべて話してくれた。

この二人の信頼関係があったからこそ、ダービー馬ビービートルネードが誕生したのである。



＊梅山和則厩舎＊



シゲタカオーカン
3月17日
牡
父 ダンツシアトル
母 リングマイベル

まだ太目感があり乗り込みを重ねる日々。ゆくゆく走ってきそうな期待馬。能試のメドはまだ。

●そのほかタニノギムレット×カーリアンという血統馬が近々入厩予定。

＊大和田五郎厩舎＊



フェアリーローズ
5月22日
牡
父 マーベラスサンデー
母 スターシービー

川崎で活躍したスターシービー産駒。「今開催デビュー予定だが900mは忙しそう。距離延びてから」



マーベルージュ
3月1日
牡
父 アドマイヤボス
母 ハナノアイドル

今開催能試受験→次回デビュー予定。「体型からも短い距離が合いそう」

＊鬼沢裕充厩舎＊

ビッグチェンジ
5月5日
牡
父 カリスタグローリー
母 マリンフロンティア



7月下旬能試予定。「ようやく馬体にまとまりが出てきたところ」

タイムリーライヒ
3月28日
牡
父 トウナンテ
母 ヒーロライヒ



まだソエを気にしている。能試は7月下旬。顔つきが特徴的。

＊河津裕昭厩舎＊



レッセフェール
牡
父 カコイーシーズ
母 ローマンブロンコ

「立派な馬格からも大物感漂う」という期待の一頭。今開催能試受験予定。



ハヤケンマドンナ
牡
父 ソウルオブマスター
母 グリンブリッジ

「跳びが素軽い」と早い時期からの活躍期待。今開催能試受験予定。



ラブドリーマー
牡
父 ティンパーカントリー

7月1日に入厩したばかりだがその馬格からも「将来性高い」と太鼓判。

●そのほかスターオブゴジーン牡駒やアサティス牡駒の入厩も近い。北海道宮からすでに新馬勝ちした馬が移籍してくる予定も。イブキラポールはいったん入厩したがまだ幼く成長促すため休養へ。

＊久保秀男厩舎＊

リコーピンク
3月7日
牡
父 カコイーシーズ
母 フォレットジューナ



デビュー戦は仕上がりに途中で出走。ソエが少し出ているので今後はゆっくり様子を見ながら調整予定。まだ気性も幼いので成長すればいいところまでいけると期待している。入厩した頃は静かだったがレース使ってから攻め馬では気の強いところをみせている。馬房ではおとなしく素直で飼料もよく食べる。

エスプリダグラス
4月13日
牡
父 ミシル
母 スズノムーティエ



重賞馬スズノムーティエの仔でサトデンハンター、エスプリワシントンの弟。兄弟の仲で一番おとなしい。飼料もよく食べる。まだかなり幼いので能力試験は未定。

●そのほかエスプリエミリーがいるが能力試験を受ける直前まで仕上がっていたもののソエがで6月中旬に放牧、牧場で調整中。気性はおとなしく素直。飼料もよく食べる。

＊佐々木仁厩舎＊

オジロハクオウ
牡
父 カコイーシーズ
母 マルゼンサクラ



性格は素直。おとなしいけれど機敏。新馬向きというより、使いながらよくなるタイプ。距離は長めの方がいいかもしれない。調教も乗りやすい。馬格もある。今回デビュー予定。

エフケーフィル
牡
父 ジェニユイン
母 ダイヤモンドリッカ



6月に来たばかりだがこちらに来る前に十分乗りこんでいたので、今回能試受験予定。少しヤンチャなところもあるが調教では素直。現在430kg位と少し小柄だが、飼料はよく食べている。新馬向きか。

ワタボウシ
牡
父 ラムタラ
母 インディアボンポーサ



牧場から来たばかりだが環境への慣れは早い。能試は調教を見ながらゆっくり使っていく予定。

＊佐々木吉郷厩舎＊



キミキララ
4月25日
牡
父 エアジハード
母 ホマレノグレイス

今回デビュー予定だが、能試でも調教でもたっぶり砂をかぶせているぶん差す競馬にも対応できそう。仕上がりは早い。



ディアナディーティ
3月8日
牡
父 サッカーボーイ
母 アイアンキヨコ

今回デビュー予定だが馬を怖がる面がありゲート練習を積んでいる。緒戦ではチークビーズを着用して対策。「スピードありそうだね」。

＊佐藤健二厩舎＊

ミスターウォーカー
3月12日
牡
父 ダンツシアトル
母 リングマイベル



今回能試受験して次開催デビュー予定。短～中距離向きで先行タイプとしての活躍期待。

＊杉村勝実厩舎＊

馬名未定
牡
父 アジュディケーティング
母 オートマリリン



「スピード的な資質は高そうだが、まだ線が細い」とのこと。馬体面の強化を図ってからのデビューになりそう。

★現段階で2歳馬未入厩の厩舎につきましては改めてご紹介いたします。



川崎競馬夏まつり2006

7月23日(日)

川崎競馬開催日 12時半～

ファミリー縁日やホテルの館、トークショー、カツマルくんと遊ぶなど盛りだくさん！(内馬場にて)

遠征の記録

6月10日東京第7競走(3歳500万下牝・芝1600m)にフロマージュブラン(内田勝義厩舎)が出走。内田博幸騎手を鞍上に後方を進みましたが結果18着でした。

＊ staff room ＊

●2006川崎競馬スーパーPOGの募集が始まっています。詳細は倶楽部サイト <http://www.kawasakikeiba.com> で見ていただくとして、ビービートルネード東京ダービー制覇によって、来年も！と夢は膨らむばかりです。例年以上に入厩は早くすでに130頭が来たるデビューに向けて調教を日々積んでいます。

あ

●ふたを開ければ川崎馬のワンツーフイニッシュで終わった東京ダービー。ビービートルネード担当の高松厩務員に「お祝いは何を？」と聞いたら「甲斐さんと二人でお祝いしました！内容は秘密です。」とニコニコで答えてくれました。その高松厩務員の現在の担当馬はイシノサンデー産駒のユキノゴゴーとビービートルネード。2頭ともサンデーサイレンスの孫。そして今年の担当2歳馬もイシノサンデー産駒と本当に縁があるようです。しかもこの2歳ちゃん、ゲート練習であの狭いゲートの中をUターンし後ろ扉を飛び越えたそう。幸い擦り傷だけで済んだからよかったもののまだ危ないことがわからないやんちゃっ仔、でもこの子も素質はかなり感じるそうです。詳細はまた2歳馬特集にて紹介しますのでお楽しみに。

楓

●川崎競馬場に向かう時に利用する京急線。いつも車内で楽しみにしている事があります。それは立会川駅付近に見えるTCKのスタンドを眺める事です。決して馬が見えるわけではありませんが、毎回目で追ってしまいます。川崎競馬場も見えたらいいのに・・・と思っていたら、なんとこの間多摩川にかかる橋の上から見えました！その事を興奮気味に話したら、みんな知ってるの事。もしかして知らなかったのは私だけ？でもこれで車内での楽しみがまた一つ増えました。(実はラッシュだと見えないんですよ。)

とら

●ダービーだからといって緊張しなかったという町田騎手はまだ18歳。デビューした時から思っていたが、とにかく落ち着いてるんです。こちらのつたないインタビューにも冷静に的確に、ハキハキと答えてくれました。そんな町田騎手の趣味は映画鑑賞。最近は今川崎に来ていた実習生の子と「夢駆ける馬ドリーマー」を観に行ったらいいです。やっぱり馬なんですね(笑)ちなみに町田騎手、外を歩いていて声をかけられたことはないそうです。黄色い勝負服を着ていないから？(笑)ダービー制覇を機にそんなことも増えるのでしょうか？

梅